ちょっと名大史

201

「名大（めいだい）」はいつから？

『名大トピックス』や「ちょっと名大史」のタイトルにも使われている、名古屋大学の略称である「名大（めいだい）」は、古くから親しまれてきたものです。名古屋帝国大学を「名帝大」と略すのが一般的であったことから、最初にこの略称が使われたのは1947（昭和22）年に「帝国」が取れて名古屋大学となった時だと思われがちですが、実はそうではありません。

1931（昭和6）年、名大医学部の前身である県立愛知医科大学が官立移管され、名古屋医科大学となりました。現在の感覚では、その略称は「名医大」となるのが自然に思えます。しかし、新聞では、「名医大」も多く見られますが、「名大」も使われました。そして何より、当時の学友会報を見ると、大学関係者の中では「名大」の方が定着していたようです。

名古屋医科大学の学友会報は、当初は『鶴天学友会会報』でしたが、1933年から教官による『鶴天学友会報』（7月に第1号）と学生による『名大』（1月に第1号）に分かれました。『名大』の紙面に「名大」の略称が使われたのは当然ですが、『鶴天学友会報』でも「名医大」はあまり見られず、やはり「名大」が使われました。名古屋医科大学の略称が「名大」というのはやや違和感もありますが、当時の名古屋市には他に大学はなく、それで問題はなかったのでしょう。

もっとも、新聞では「名医大」も一般的に使われましたし、野球部のユニフォームは「MEIIDAI」（名医大）になっています（写真4）。学友会報でも、「名古屋」を略さない場合は「名古屋大」ではなく「名古屋医大」と記すことが多かったようです。

名古屋医科大学は、官立総合大学設置運動が挫折する中で、やむをえず単科大学として出発した経緯がありました。総合大学になれなかった無念も、「名大」の呼び方には込められていたのかもしれません。

1

3

4

2

1 『名大』第1号。題字の上下に副題のような形で「NAGOYAIDAI」とあるが、第14号からはそれも見られなくなる。
2 『鶴天学友会報』と『名大』が合同して発刊された『名大学友会報』創刊号（1935年10月）。この時、学友会の名称も「名古屋医科大学鶴天学友会」から「名古屋医科大学学友会」に改められた。この学友会報は、『名帝大医学部学友会報』等を経て、現在も『名大医学部学友時報』として発行されている。
3 『大阪朝日新聞』（名古屋本社版）1939年12月18日の記事。新聞では、名古屋帝国大学の略称は「名帝大」が圧倒的に多かったが、「名大」の表記も見られる。
4 名古屋医科大学野球部の部員たち。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む
NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。
詳しくはホームページをご覧ください。
名古屋大学基金 http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/ アクセスはこちらから▶

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。